



校内弁論大会を開催しました ～テーマ 社会を明るくするために～

6月7日(金)に、「社会を明るくするために」というテーマで校内弁論大会を行いました。今回は、坂出地区保護司会綾川支部の保護司の皆様6名の方のご臨席を賜り実施することができました。

弁論大会を開催するにあたり、5月上旬に生徒全員が原稿を完成させ、学級弁論大会、学年団弁論大会を経てこの日に至りました。代表生徒は各学年から選ばれた計6名。6名の弁士には、それぞれに思いをもち、そして熱く真剣に自分の主張を訴える立派な態度が見られました。さすが各学年の代表と思われる弁論でした。各弁士の弁論の要旨は以下の通りです。



【坂出地区保護司会綾川支部の方からのご講評】

- 一人一人が互いを理解し、思いやりを大切にしていれば暮らしやすい社会づくりを。 1年女子
- 言葉は「愛」であり「闇」でもある。どちらになるかはあなたの「一言」次第。 3年女子
- 一人一人が「普通」という概念にとらわれず、自分なりの生き方をしていこう。 3年女子
- 言葉は人を傷つける凶器や素敵なプレゼントになる。あなたの言葉は? 1年女子
- さりげない「一言」が大きな意味をもつ。私の声で回りを元気にしていきたい。 2年女子
- 価値観の違いや多様性を理解し、一人一人が大切にされる思いやり溢れる社会に。 2年女子



どの主張からも、私たちのごくありふれた日常を見直す新たな視点が示されました。また、当たり前すぎて見過ごしていたことにも改めて気付かされました。このような熱いメッセージに引き込まれたのか、フロアの子どもの話を聞く態度も実に見事で、各弁論の後には、弁士に対する惜しめない拍手が体育館内に響き渡り、代表の弁士たちもこれまでの苦勞が報われたと感じたことでしょう。

さて、校内弁論大会の開会にあたり、今回の弁論の聞き方や、今後の生き方について次のような話をしました。

- ① 「相手意識」を高めることが大切であること。体育祭では、周囲を気遣い、友達への気配りにあふれた言動が随所に見られた。大会、コンクールまで残された日々が少なくなった部活動や日々の学校生活でも「相手意識」は自他を尊重し、成長させる大切なものであること。
- ② 「相手意識」を高めるために大切なことは、「気付き力」「気配りする心」を高めるとともに、それらを実行する「勇気」と「実行力」であること。
- ③ 今日の各弁論を聞いての「気付き」を大切に、きれいごとで終わらせずに、考えたことを実行する勇気をもってほしいこと。

「相手意識」とは、今回の弁論大会で身に付くものではなく、日頃の学校生活や家庭・地域での生活において少しずつ身に付けていくべき力だと考えます。

「素晴らしい弁論だった」という感想に終始せず、日頃の学校生活等を通して、自分の考え方がよい方向に変化したり成長したりしているという実感を味わえるような、他者を思いやった思慮深い言動ができる子どもたちに育ってほしいと願っています。

